

自ら学ぶ教職員 活動報告書

グループ名 魁 山川塾

テーマ 学校林の活用に関する教材研究及び教材づくり

取組のポイント・成果

取組の内容とポイント

〈取組内容〉

郡上高校では令和2年度に裏山の一部（以下、学校林）を同窓生（山川氏）から寄贈していただいた。当初は林業の重要性やその実態を学ぶための教材として、木材の伐出に主眼を置いた運用をすべく林内の作業路設置を目指した。しかし、急峻な地形や保護対象物（今回は校舎を中心とした建築物や生徒の活動場所）が近いため、作業路の敷設に対して慎重にならざるを得なかった。

そこで、学校林の活用について伐出以外の分野でどのように教材として扱っていくか各分野の専門家を交えた研修を行い、学校林の特徴を踏まえた教材を作ることを目指した。

〈活動のポイント〉

活動のポイントとしては、山林の状態と災害予知の分野で専門家を招いて研修（将来的にどのように木材伐出するか模索しながら）を行い、それを元に教材化を目指した。また、森林環境科学科以外の生徒（本校は普通科や園芸科学科・食品科学科も併設）にも活用できる内容のものを作成することで、学校林活用の幅を広げることに主眼を置いて活動した。

主な研修の内容

第1回

内容：山林災害リスクを考慮した森林整備
講師：岐阜県森林研究所 白田氏、和多田氏
日時：令和4年6月14日
場所：郡上高校及び学校林

山地における災害リスク評価の手法を主に研修を行った。様々な観点で災害リスクを評価すると共に、学校林ではどのような視点で活動すべきか、実際に現地にて研修を行った。



写真1 資料解説



写真2 現地研修

第2回

内容：先進林業地見学
講師：森林マネジメント協議会 樋口氏
日時：令和4年8月24日
場所：郡上市明宝奥住水沢上

高性能林業機械における伐木・集材の方法について木材の伐出の実際をテーマに研修を行った。高性能林業機械の能力と共に、木材の評価（研修場所は挿木苗と実生苗が混在）についても講義を受けた。



写真3 高性能林業機械



写真4 伐出の様子

主な研修の内容

第3回

内容：学校林の評価と山林の目標設定について

講師：造林技術研究所代表 横井博士

日時：令和4年9月26日

場所：郡上高校及び学校林

学校林の木材生産での観点における評価と、適正な目標設定と今後の管理について研修を行った。学校林は比較的大径木が多いが災害リスクと生産の両立を図るための適正な目標設定とその管理手法について具体的なアドバイスをいただいた。



写真5 学校林評価

第4回

内容：地域資源の活用（ニホンジカの解体）

講師：ジビエ工房めいほう代表 元満氏

日時：令和4年12月16日

場所：郡上高校

本研修は年度初めには予定していなかったが、生きたニホンジカの提供を受けたため急遽実施した。地域資源の活用や周辺産業の観点から教材としての幅が広がると判断した。今回は、正しい衛生解体の方法や、寄生虫の有無を判断するポイント等について研修を行った。



写真6 解体の様子

研修のまとめと教材づくり

内容：教材づくり

日時：令和4年12月20日～令和5年1月27日

これまでの研修をまとめ、今回は導入部分の教材を制作することにした。導入は生徒達が予備知識の無い状態で学校林に行き、自由に学校林を評価する。その後、評価の観点について分野を解説し、改めて生徒達が興味を持った分野について主体的な学習を進めていけるよう計画をした。今回の研修を通して提供していただいた資料を共有し、今後の展開について生徒達をそれぞれ得意な分野で指導できるように話し合いを持つことができた。



写真7 研修資料

成果

実施した研修はどれも高度で専門的な分野での研修であったが、現状で最新の知見を得ることができた。最も大きな成果としては関係各所と広く連携ができたことで（伐出については来年度に向けて計画）、当初の計画にはなかった内容まで深化することができ、教材としての幅を広げるとともに、今後の学校林活用の可能性を高めることができた。特に貴重なデータや資料（本稿では紹介できていないが）の提供や、無償で来校し今後の活動についてご助言して下さった方をはじめとして、多くの方々の理解と協力によって支えられた研修であった。

また、山林の活用について普通科や工業科の先生方の知見を取り入れた教材づくりができたことが大きかった。現時点ではまだ林業色が強い教材となっているが、これも郡上高校だからこそ実現できた内容だと感じている。

今後の課題

今回提供していただいた資料や、制作した教材を来年度から実施していきたい。現時点では森林環境科学科の職員が中心となって授業を展開していくしかないが（学校林の範囲や、現地の解説など）、ゆくゆくは多くの教員が学校林を活用していきながら教材研究を進め、新たな視点を加えた本校独自の教材としてさらなる高みを目指していきたいと考えている。